

の自分のものとして、大手を振つて登園も来るのが、第二保育期の心理である。

そこで、我ままにもならう。いたづらにもならう。おづ／＼してゐた子が平氣にもならう。平氣が過ぎて、鬨々しく見えることもあらう。それは時とすると驚くばかりである、之れは單に精神の一ヶ月の發達の結果だけからではない。幼稚園と自分との關係がらの社會心理がある。先生は、呆れてゐるだけでなく、その意義をよく／＼解しなければならぬ。

そこで、簡單にいへば、かくてこそ始めて眞の幼稚園生活が始まるのである。眞の幼稚園生活が始まつてこそ、眞の幼稚園教育が始まり得るのである。第二保育期、特に新入園児に對する意義は深い。

一體、幼稚園にしても學校にしても、そこで教育をされる場所といふ風にのみ考へられてゐることが多いが、實は、子どもに、その生活を與へることが第一義なのである。家庭だけを我ものと思つてゐた子に、幼稚園を我ものと思はせ、それから學校を我ものと思はせ、それから社會を我ものと思はせ、それから園を我ものと思はせる。斯うしたことに深い意味があるのである。園を我ものと思ふとは、分に越えた心もちのようだが、この心もちあつて眞に園を愛する。つとめでなく、義務でなく、我が心抑へ難き愛である。幼稚園も幼児にとつてさうでありたい。

それにしても、いゝ十月ですね。秋熟す實りの季節に、幼児等

は元氣がはち切れる。はち切れる程の強さの中におののみ、眞の躰も訓練も出来る。曰く生活訓練、曰く躰、所謂おとなしくさせること許りではない。元氣にすることであり、活潑にさせることであり、勇敢にさせることである。抑えるばかりでなく彈力をつけ、控へさせるばかりでなく伸長させるのでなければならぬ。秋が子どもを充實させ伸展させる。人間の教育も、負けないで勢よくやらなければならぬ。積極の訓練、積極の躰。戦時下日本の天は高く晴れてゐる。

### 自由遊戯

上遠 文子

涼しい風が私達の氣持を引しめてくれます。あふれ出るお子さんの勢力を、私達のよき指導により、よりよき發達に導きませう。私共に平凡な、つまらぬ遊戯も、そのお子さんには又何かの好果をうるかもしれませぬ。一つ／＼誠意を持つて過しませう。

砂山くづし 否活潑的な遊びと申しませうか、御部室の前でぽつんとお友達なくたつてゐるお子さん達を砂場に誘つて、こんな事でもはじめたら動き出すのではないでせうか。お子さん達は銀砂と言つてゐますが、乾いた砂で棒を中心にさして山を作ります。さら／＼した銀砂の感觸は氣持のよいものです。

ジャンケンをして勝つたものよりその棒を倒さぬ様に砂を澤山とれるだけとりませう。次第に取つてゆくうちには棒のまはりの砂

は少くなるので其處に面白味が出てくるわけです。

倒した人はまげになります。

### 電車ごっこ

繩とびの紐が、今まで自分達が座つてゐた椅子が動き出して、電車になり汽車に變つてゐる。お子さん達の考案は私達を時に驚愕させ、時に感服させます。先日、貨物列車のつながらだと、御本でその連結區合をしております。成程よく感じが出ており、あのガチャ／＼と云ふ気分でした。

普通紐を輪にして電車汽車にしてありますがその邊の工夫はお子さん達にまかせて、先づ、車掌さん運轉手さんを決めませう。男のお子さんは誰でも車掌さん、運轉手さんになりたいのですから、交替に致しませう。お庭の其處に、彼處に、停留場、驛を造り、交叉點の所には赤、青の旗を持つた信號する人もおもしろいでせう。手技の時、運轉手さんの首から何處行の札をさげたり、車掌さんの鞆や、切符を造つたり、するのにも楽しみの一つです。停留場や驛の名前はポール紙位の厚紙に紐をつけ木の枝に引っかけしておくだけでもよろしいでせう。年長組になると、尙一段とそこに工夫も出て來、傑作も出る事です。

紐の場合、お客様が多勢だと足のはこびが悪くなりますから、急行など出さぬ様、特に年少組には注意せぬばなりません。御部屋で椅子又は箱積木を利用した電車ごっこ、汽車ごっこには、動く事はありませんが、その他種種、お辨當賣、新聞賣など出て、面白く遊べます。

### じゃんけん飛び

何人でも出来る遊びです。始め、飛ぶ距離を

きめておきます。あまり短かすぎても、又あまり遠すぎてもいけません。出發點の所へは線を引いておきます。じゃんけんをして、「グー」は十、「チョキ」は五つ、「パー」は二十、と數を決めておき、その數だけ大股の歩みでとんでゆきます。そして決められた距離までゆけば又もどり、早く出發點へついた方が勝になるわけです、歩幅が廣い方が得なわけですので、自らそこに體練され又、遊びながらにして數の練習も出來、よい遊びとしておすゝめ致したいものです。

帽子とり 國民學校でよくみかける遊びですが、幼稚園ではどうしませうかと考へてみました。じゃんけんして、赤白、又は勝負の組に分れます。何れも陣地なるものを作つておきます。勿論、帽子、又は手拭を頭に巻いておき敵の帽子を取る戦争です。勝どきと共に開戦。お互ひに帽子をとられまい、又どらうと追ひかけます。取られたものは敵の捕虜になり敵の陣地で味方に助けられるのをまつておませう。敵に味方のものが捕虜になつた時捕虜の帽子を取つた時は捕虜は助けられた事にしてみました。皆捕虜になつた時は勿論負となります。帽子を取る事は相當、荒い鬭争も起る事です。から、帽子にさわつたら取られた事にするといふ程度の契約をしておきたいものです。年少組には少しむづかしいので年長組にはその競技精神なるもの、理解する様、又お互ひに味方は助け合ひ、清き正しく勝負し合ふ精神を養ふ様、指導者は心掛けなければなりません。

### 今年のぼたん(鬼ごっこ)

今年のぼたんばよいぼたん、お耳をからげてすつぽんくももう一つおまげにすつぽんく

お子さん達も又私達も心地よい調子に、お隣の人と手を取り合つてしまひます。

何人でもよろしい。一人鬼になる人は何處かはなれた所にある。他の者は手を取あひ、

歌を歌ひつゝおもしろく遊んでゐる。

そこへ鬼が「入れて下さいな」、他者「いや」鬼「川へつれていつてあげるから入れて」他者「カッパが出るから嫌鬼」それぢやあ、海へつれていつてあげる」他者「海坊主が出るから嫌鬼」それぢやあ山へつれていつてあげる」他者「山坊主が出るから嫌鬼」家の前で天秤棒でぶつから」それでは入れてあげる」、そこで鬼も入れて今年のはたんは……と遊ぶ。途中鬼が「私もう歸るわ、他者」どうして」鬼「おひるの御飯だから」他者「おひるの御飯のおかず何に？」鬼「へび」他者「生きてるの？ 死んでゐるの？」鬼「生きてゐるの」

他者「ぢやさよなら」鬼「さよなら」と鬼が二三歩歸りかけると、皆んなで「誰かさんの後に蛇がある、誰かさんの後に蛇がある」鬼「私？」他者「ぢがふ」誰かさんの後に蛇がある」と二三回、同じ會話を繰返して後、「私？」と聞かれたら「さう」と答へ、鬼は追ひかけ、鬼ごっこになる。又つかまへられたらその人が鬼になるわけです。この遊びに、はさむ言葉に、又深く言へば思想に、何んなものかと思はれる節もあり、私も氣づかひつゝ致しております

が、それは言葉の節なのだ遊びの文句なのだと單なるものに考へればよろしいでせう。

あゝぶくたつた煮えたつた(鬼ごっこ)

鬼を中心に何人でも多勢でも結構です。手をつなぎ

あゝぶくたつた煮えたつた

煮えたかどうだが食べてみやう(たべる眞似をする)まだ煮えない。

反復して もう煮えた。

隣りのおばさん時計は何時？

夜中の十二時、おばさんのお名前なんといふの？ 柳の下の大

入道といひながら、おひかけ鬼ごっこになるのです。

何れも昔からつたわつてゐるもので皆様もよく御存知の事と存じます。或はその土地々々により言ひ方も異になるでせう。唯御記憶をよみがえらせるために加へました。

### 遊 戲

#### 古澤 静子

遊戯や競技に絶好の季節。大いにはね、高らかに歌ひませう。今度は二人で組になるものをいたしました。共同動作になると責任重大になつて参ります。九月及十月むきのもの、五ツ六ツと出してみました。

「かけっこ」 繪本唱歌アキノマキ所載